

# 1998年国際徽学研討会

松浦 章

1998年国際徽学研討会が、以下のように開催された。

会場：安徽省績溪縣光明大酒店

期間：1998年8月15日—8月21日

日程：8月15日（土）登録

8月16日（日）開幕式、記念撮影(8:00-10:30)（以下敬称略）

中国社会科学院歴史研究所副所長・陳祖武

安徽大学、安徽師範大学、績溪縣人民政府の各代表者

中国社会科学院外事局・孫新、安徽師範大学・張海鵬、趙華夫、小野和子、胡漢民、葉頤恩

大会学術報告(14:30-17:30) 主人：張海鵬、小野和子、葉頤恩

夫馬進（京都大学）：試論明末徽州府の絲絹分担紛争

欒成頤（中国社会科学院歴史研究所）：

中国封建社会諸子均分制述論——以徽州文書所見為中心

岩井茂樹（京都大学人文科学研究所）：明代『徽州府賦役全書』小考

伍 躍（京都大学研修員）：官印與文書行政

松浦章（関西大学文学部）：徽州海商王直與日本

胡憲民：徽商法律觀念之探討

歓迎宴会（18:00-19:30）

8月17日（月）

大会学術報告(8:00-11:30) 主人：夫馬進、趙華富

権仁溶（韓国・高麗大学）：

明末徽州の土地丈量與里甲制——以祁門縣“謝氏紛争”為中心

杜英賢（台湾・永達工商専科学校）：胡適の婚姻與情愛世界詳述

朴元煥（韓国・高麗大学）：明清時代徽州商人與宗族組織——歙縣方式個案研究

葉頤恩（廣東社会科学院・歴史研究所）：儒家伝統文化與徽州商人

臼井佐知子（東京外国語大学）：試論中国徽州商人與日本近江商人商業倫理之異同

王廷元（安徽師範大学歴史系）：略論徽州商人的義利觀

范金民（南京大学歴史系）：清代徽州商帮的慈善設施——以江南為中心——

王振忠（復旦大学中国歴史地理研究所）：

- 『唐土門簿』與『海洋來往活套』——佚存日本的蘇州徽商資料及相關問題研究  
大会学術報告(14:30-17:30) 主持人：王延英，松浦章
- 趙華富（安徽大学徽学研究所）『績溪縣龍川胡氏宗族調查與研究』簡介
- 川勝賢亮（大正大学）：明清時代徽州地方的宗教社會與宗教文化
- 則松彰文（福岡大学）：清代中期中国社会與奢侈
- 卞利（安徽大学歴史系）：16至17世紀徽州社会変遷中的大衆心態研究
- 中島楽章（早稻田大学）：明前期徽州の民事訴訟個案研究
- 阿風（中国社会科学院歴史研究所）：徽州文書中“主盟”的性質
- 趙日新（北京語言学院）：徽州方言の形成
- 分科会(19:30-21:30) 第一分科会：「宗教與社会」（主持人：趙華富）  
第二分科会：「思想，文化及其他」（主持人：周曉光）  
第三分科会：「徽商與社会經濟」（主持人：王振忠）

8月18日（火）

- 上莊鎮人民政府，上莊胡適旧居參觀
- 胡適記念館，胡開文老宅「愛西方敬堂の影響」等見学
- 石家村（安徽省の基盤村）見学……古い町並みを残している。
- 分科会(14:30-17:30)
- ビデオ放映(17:30-18:10) 「歴史文化名城 縢渓」（1995年12月作成，約30分）  
内容は績渓縣の史跡を中心に編集したもの

8月19日（水）

- 坑口龍川胡氏宗祠參觀
- 大会学術報告(14:30-17:10) 主持人：范金民，岩井茂樹
- 周致元（安徽大学徽学研究所）：明代政治舞台上的徽州進士
- 李琳奇（安徽師範大学）：徽州書院略論
- 胡成業（績渓縣人大委員）：績渓書院考略
- 翟屯建（黃山市博物館）：徽州派版画的興起與發展
- 洪樹林（績渓縣政協文史委員）：徽州村落的美学特点——兼談績渓村落的美学内容
- 邵之惠（績渓縣志弁）顯示古徽聚落文化特徵的石家村
- 方玉良（績渓縣文物管理所）績渓縣古建築牌坊統覽
- 自由活動

8月20日（木）

- 大会学術報告(8:00-11:30) 主持人：朴元槁，王振忠
- 徐子超（績渓中学）：胡開文墨業系年要錄 胡開文墨業蒼生譜 附：徽墨印版彫刻工芸
- 周紹泉（中国社科院歴史研究所）：徽州文書與徽学

劉伯山（徽州社会科学編集部）：徽商的儒商本質及競爭優勢——探徽商成功的奧秘

方利山（黃山高專徽州文化研究所）：

三談胡適重審『水經注』學術公案——兼與桑兵教授商榷

張雪慧（中国社科院歴史研究所）：明代徽州文契所見土地關係初探

陳智超（中国社科院歴史研究所）周紹泉氏代読：

新發掘出的徽州文書——方元素信件介紹

學術総括報告・閉幕式(15:10-16:30) 主持人：趙華富

周紹泉氏の総括の後、胡成業・羅曉錦副縣長・邵之惠・胡永吉（杭州徽学会）・葉頤恩氏等の発言があり、次回の開催が2000年に予定されていることが報告された。

閉会宴会

【学会の感想】徽学の学会は初めて参加したが、中国国内外の研究者、及び関係者約70名の中規模の学会であった。績溪縣の光明大酒店を借り、会場と宿舎が一体となり専門家間の交流は有意義であった。報告の内容は徽州に関するテーマであれば参加が可能であり、1980年代から研究が進み、徽州文書と言われる日本流にいえば「地方文書（じかたもんじょ）」の研究に限らず、徽州の歴史、人物に関しての報告が多かった。

中でも徽州文書の整理に直接関係される周紹泉、欒成顥、張雪慧、阿風氏等の研究は関係者でなければ行えないものである。特に若い研究者の一人阿風氏は徽州文書に散見する「主盟」に注目し古典の実例を博搜して考察している。この研究から中国古代の社会構造の一端が徽州文書にも反映されている印象をあたえた。また逆に中国古代史を考察するヒントが徽州文書中に隠されている感をあたえた。徽州の地方文書以外に徽州商人が活動した地域に残された文書に注目した研究が王振忠氏の研究といえる。徽州商人が関係した日本に残されている資料を博搜してこれまで注目されていなかった徽州商人の実像にせまろうとする興味深い報告であった。今回の報告に多かった徽州商人の商人理念の分析を試みた研究は、儒商との問題であるが、実証が難解な問題である。しかし一つの試みとして日本の近江商人と比較した臼井佐知子氏の方法論は今後の研究方法として可能性を秘めているように思えた。世界には様々な著名な商人集団が存在し、現在も存在するわけで、それらと相互に比較研究することは徽州商人のみならず、中国史に見える地域商人の特質を解明する有力な方法論になるのではないだろうか。